

カダザンドスンと収穫(Kaamatan)祭について

カダザンドスは、サバ州の原住民であり、サバで最大の民族グループです。Kaamatan という語は、カダザンドスン語の収穫を意味する語から派生したものだそうです。毎年 5 月になると、サバ州全土で Kaamatan 祭が行われます。この祭りは、家レベル、村レベル、地区レベルと規模が拡大していき、最終的に 5/30,31 に最高潮に達し、州全体でこの祭りを祝います。この日は州の祝日になります。

Kaamatan 祭は、大昔から行われてきたカダザンドスンの文化的な年中行事であり、Bobolian という伝統的宗教に則ったものです。人々は、人間を愛と慈悲に満ちて飢饉と飢餓から救った神へ感謝の意を表します。日本でも古くから米の収穫に感謝する新嘗祭が行われてきたことは周知の事実です。つい最近までサバの殆どの人々は、米作農民であり、特に内陸部では熱帯雨林を開墾する厳しい労働を強いられました。米が不足することは飢餓を意味するので、穀物に畏敬の念を払うようになりました。彼らの生活は、稲の生育のライフサイクルと入り組んで結びついており、Kaamatan は、そのライフサイクルの最終段階に位置づけられます。Kaamatan は、米の収穫に感謝し、次のよりよい収穫を祈るための儀式でありお祭りであります。豊かな収穫と寛大さに対して神に感謝することに加えて、Kaamatan は、饗宴、酒宴、音楽および踊りを介して共同体の結束を強化するために有効なものです。

Kaamatan を理解するためにカダザンドスンの神話の世界を遡らなければなりません。最初に、唯一神 Kinoingan と妻 Suminundu 以外に何もありませんでした。彼らは、一緒に、宇宙、天国および地球、見えるものと見えないもの、知られているものと知られていないもののすべてと、最後に人間を創りました。世界は純粹で美しかった。しかし、Kinoingan の息子 Ponompulan が謀反を起こし、地球上の人間の心と精神を破壊したので、人間は悪行を行うようになりました。怒った Kinoingan は、息子を地獄に放逐し、人間に七つの災害をもたらしました。七つ目の災害は、地球上の生き物をすべて抹消してしまうほどの大飢饉でした。

人々は罪に気付き Kinoingan に許しを請いました。Kinoingan の唯一の娘である Huminodun は、父の慈悲にすがり、人々を許すよう懇願しました。Huminodun は、彼女を犠牲にして人類を救済するという Kinoingan の提案を受け入れました。彼女の身体は、部分に分けられ、それぞれが、異なる種類の種として植えられて、我々の食物のもとになったそうです。彼女の肉は、粳つきの米に、血は赤米に、心は Bambaazon という米の精になりました。Kaamatan は、偉大なる愛と深い慈悲の心で地球上の生命をサポートするシステムを提供してくれた創造主である Kinoingan とその娘である Huminodun に感謝するための祭りです。

Bobohizan と呼ばれる心霊の専門家が、Magavau という重要な儀式を行います。米や米で作られた加工品の中には Bambaazon が存在しています。稲の生育過程で、鳥獣や水害、人間の行為により、Bambaazon は傷つき、バラバラに引き裂かれます。Bobohizan は、精神世界を旅して、引き裂かれて、彷徨っている Bambaazon の部分を集めて、合体して、納屋に引き戻し、ご馳走を振舞って宥めて、次の豊作を頼みます。Magavau とは、カダザンドスン語で人が失ったものを回復す

るということを意味するそうです。

Kaamatan のハイライトは、**Unduk Ngadau** と呼ばれる美人コンテストです。"Unduk"とは、食物の新芽を意味し、若さと進歩ということです。"Ngadau"とは、正午の太陽を意味し、心、精神および身体総合的な美を備えたカダザンドスンの理想的な女性を暗示します。"Unduk Ngadau"とは、カダザンドスン女性の中から **Huminodun** にもっともよく似た人を選ぶイベントで、知性に溢れた慎み深い美人が選ばれます。地区の **Kaamatan** で選ばれた代表が一堂に会してその年の美人女王を選ぶ選考会が行われます。会場は大勢の参加者で溢れ、大いに盛り上がります。

Kaamatan 祭には、カダザンドスンは、金の刺繍の入った黒地の民俗衣装を身に付け、参加します。しかし、カダザンドスン以外の人々も自由に参加することができます。伝統的な歌、踊り、演奏などが披露され、たくさんの出店で民芸品や食品、衣服などが販売されます。米で作った酒(タパイ)や民俗料理を振舞うコーナーも存在します。いろいろなスポーツ大会も行われます。人種、肌の色、宗教、文化的背景の異なる多種多彩な人々が集まって、陽気にこの行事を祝います。**Kaamatan** は、サバの民族の多様性に対して調和と和合を育み保持するために有効に機能しているように思います。

私は、2010年5月、**Tambunan** と **Ranau** の地区レベルの **Kaamatan** と **Penampang** にある **KDCA** で行われた州レベルの **Kaamatan** に参加しました。何れにも **Pairin** 氏が出席され、州レベルの **Kaamatan** には州知事が出席されていました。

KDCA とは、カダザンドスン文化協会 (**Kadazandusun Cultural Association : KDCA**) という非政治団体であり、カダザンドスン多民族文化の調査、文書化、保存、発展および普及など多面的活動を行っています。現在、**KDCA** は、民族の最高指導者 (**Huguan Siou**) である **Pairin** 氏により率いられており、**Othman** 博士、**Lungkiam** 博士 (**Othman** 夫人) も **KDCA** で要職を担っておられます。私はサバを訪れるときは必ず彼らの家でホームステイをします。

サバには多民族、多種族が住み、多様な言語が使用されており、いくつかの宗教が信仰されているので、まさに人種のるつぼです。しかし、サバの社会情勢は安定しており、人種や宗教の相違に起因する抗争を未だ聞いたことがありません。安定がもたらされていることは、行政に携わる人々の不断の努力によることが多いと推察いたします。さらに **Kaamatan** のような人種や宗教を超えてすべての人々を一つに纏める行事も安定のために一役買っているのかもしれませんが。サバに近代的宗教が普及する以前に信仰されていた伝統的宗教が、未だに人々の心に深く根付いており、人々を強く結び付けているので、そのことが安定のためにより効果をもたらしているに違いないと思います。彼らは、今でも **Bobohizan** を人間と神との仲介者として尊敬します。彼らの祖先は、すべてのものに命が宿るという教えを信じており、岩、木および川でさえ生き物でした。

また、私がカダザンドスンに親近感を覚えるのは、彼らが農耕民族であり、米を主食とし、大昔から伝承されてきた神話が心に宿り、自然を畏れ敬うという **DNA** を今日に受け継いできたという共通点に起因しているのかもしれません。